

がくいんふくいんか だい か つね
学院福音化、第3課 「常にすべきこと」(I テサ5:16-18)

15 いつも喜んでいなさい。

16 絶えず祈りなさい。

17 すべてのことにおいて感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。

今日の本文は、あまりにもよく知っているみことばであり、多くの聖徒たちに、そのように生きることを誓わせ、挑戦するようにさせるみことばです。私も昔から四字成語(四字熟語?)にして、私たちの家の家訓にしているみことばです。「常喜祈感」

使徒パウロは、ピリピ教会の聖徒たちと同様に(ピリ4:4)、テサロニケ教会の聖徒たちにも「いつも喜びなさい」と言っています。それだけでなく、「絶えず祈りなさい、すべての事について、感謝しなさい」と。時々ではなく、常にです。1分1秒、毎瞬間、休まないで、私が望む通りにならないすべての状況について。これは使徒パウロの命令ではなく、神様の命令です。

それでは、私たちは自分の意志を発揮して自分の感情を制御、またはコントロールすることができるのでしょうか。いいえ、できません。たとえば、今、愛する家族を失い、悲しみに浸ってどうしようもない状況なのに、自分の感情に対して「喜べ」と言っても喜びません。失敗によって挫折して苦しんでいる自分の感情に「感謝しろ」というからといって、すぐに感謝があふれないということです。もし、そうなる人がいれば、その人は周りからのケアが必要な躁うつ病患者でしょう。

今日の本文の前のみことばを見ると、他にも感情に対する数多くの命令があふれています。他の人たちを重んじ(12節)、この上ない尊敬を払いなさい、お互いに平和を保ちなさい(13節)、すべての人に対して寛容でありなさい(14節)。このような感情に対する命令を、私たちは本当に守って行えるのかということです。対象と状況に応じてコロコロ変わるのが私たちの心です。私たちはこれらの命令を守り、実行する力や実力を持った者ではありません。

きょう 今日のみことばで見逃してはならないところが、せつこうはんせつ 18節後半節のみことばです。「キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです」かみさま 神様のみこころは、かみさま 神様が成し遂げられるのです。かみさま 神様のみこころがはい 入っているめいれい 命令は、かなら 必ずそのようにつく だ 造り出すというかみさま 神様のいし 意志がこ 込められているみことばです。わたし 我々がかみさま 神様のみこころをな 成し遂げるのではなく、かみさま 神様はみこ 御子イエス・キリストとお を通して、じぶん 自分のごいし 意志をな 成し遂げられます。いや、すでにじゅうじか 十字架をとお 通してかんりよう 完了してくださり、しんり 真理のみたま 御霊であるせいれい 聖霊をおく 送ってくださって、わたし 我々をかみさま 神様のめいれい 命令、すなわち、かみさま 神様のみことばをまも 守ったものみと 者と認めくださるので

よ あなたが世からえら 選り出してあた 与えてくださったひと 人たちに、わたしはあなたのみ 御名をあらわ 現しました。かれ 彼らはあなたのものでしたが、あなたはわたしにゆだ 委ねて下さいました。そして彼らはあなたのみことばをまも 守りました。(ヨハ17:6)

ふくいん 福音はイエス・キリストです。ふくいん 福音の内容はふくいん ないよう イエス様のさま 十字架のし 死とふっかつ 復活です。このふくいん 福音をよろこ 喜びのし 知らせとい います。つまり「イエスがよろこ 喜びだ」ということ です。よろこ 喜びはわたし 我々からで 出るのではなく、かみさま 神様がおく 送ってくださりかみさま 神様からう 受け取ったこと です。

わたしはいま 今、あなたのもとにまい 参ります。よ 世にあってこれらのことをはな 話しているのは、わたしのよろこ 喜びがかれ 彼らのうちにみ 満ちあふれるため です。(ヨハ17:13)

きょうかい 教会もおお 多くのおほくがい 迫害とかんなん 患難がありました。しかし、かれ 彼らの中になか 聖霊のせいれい 聖霊のよろこ 喜びがあ ったので、まげどニアとアカイアのしんじゃ 信者のもはん 模範となりま した。

あなたがたも、おほく 多くのくなん 苦難なか 中で、せいれい 聖霊によるよろこ 喜びをもつてみことばを受け入れ、わたし 我々に、そしてしゅ 主にあそ 仕えよう者になりました。そのけっか 結果、あなたがたは、まげどニアとアカイアにいるしんじゃ 信者のもはん 模範になったの です。(I テサ1:6-7)

せいれい 聖霊はいま 今でもわたし 我々なか たちのなか 中におられ、ちち 父なるかみさま 神様のみこころのとお 通りにいの 祈っておられます。ふっかつ 復活したかみ 神のさ 右の座におられるイエス・キリストも、わたし 我々のために、とりなしてくだ さいます。

おなじように御霊も、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、何をどう祈ったらよいか分からないのですが、御霊ご自身が、ことばにならないうめきをもって、とりなしてくださるのです。人間の心を探る方は、御霊の思いが何であるかを知っておられます。なぜなら、御霊は神のみこころにしたがって、聖徒たちのためにとりなしてくださるからです。(ローマ8:26-27)

だれが、私たちを罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしてくださるのです。(ローマ8:34)

最後に、いつも喜んで、絶えず祈り、すべての事について感謝しなさいという命令は、この世を生きる私たちに決断を求めるみことばではなく、むしろこの世の中でいつも喜ぶことができず、絶えず祈ることができず、すべての事について感謝することができない私の肉体的自我の実体を経験しながら、いつも喜ぶことができ、絶えず祈ることができ、すべての事について感謝することができる神の国を望み、その神の国を完成させたイエス・キリストをさらに頼るようにさせるみことばなのです。